



北野地区は、人口約2万3千人、約1万100世帯（平成20年7月現在）と、区内5地区の中で二番目に人口の多い地区です。

地域みんなで楽しもう

北野地区では福祉のまち推進センターを中心として、民生委員児童委員協議会や町内会等が協力し合い、一人暮らしのお年寄りの見守り活動や中学生ボランティアによる除雪、お弁当の宅配など、さまざまな福祉活動に積極的に取り組んでいます。

活動の一つ「北野福祉まつり」は、子どもからお年寄り、障がいのある人に気軽に参加し楽しんでからおうと開催しているもので、今年で10回目



北野福祉まつり

となりです。まつりは児童会館や福祉団体のほかに、地区の中学生もボランティアとして多数参加しています。

音楽で地域を一つに



北野地区青少年音楽のひろば ▲▼

音楽を通して交流の輪を広げようと「北野地区青少年音楽のひろば」を開催しています。地区住民が気軽にレベルの高い演奏を楽しめる音楽会として定着し、今年で20回目を迎えます。

音楽会には、地区の全小・中・高校6校と青少年少女合唱団の合計約400人が参加し、吹奏楽、合唱、和太鼓などを演奏します。最後は参加者と観客が一つになって大合唱。その光景は圧巻です。

川との共生を願い

北野地区では「夢とロマンのあふれるまち北野」をテーマに、地区を南北に流れる厚別川を中心としたまちづくり活動が多彩です。



北野ふれあい夏まつり

中でも最大の活動は地区全町内会が協力する「北野ふれあい夏まつり」。まつりの最後を飾る花火大会には、地区内外から約3万人が訪れます。

このほかにも、地区住民の憩いの場である清流を守ろうと、約千人のボランティアが参加する厚別川の河川敷清掃のほか、豊平区と合同で吉田川の河川敷清掃も行われています。

また、再びこの川に戻ってくることを願い、毎年ヤマベの稚魚の放流を行うなど、川との共生を願う活動に取り組んでいます。



▲吉田川河川敷清掃

▶ヤマベの稚魚の放流

詳細 北野まちづくりセンター
☎(883) 0373

きよた 地名考
第2回 真栄

美しい街づくりが行われた結果、「しんえい四季のまち」が平成3年に札幌市都市景観賞を受賞する榮譽に輝きました。緑豊かな自然が多く残されている地区の南側では、ホウレンソウ、キャベツなどの野菜や宿根カスミソウなどの花き栽培が行われています。そのほか、夏は天然芝のサッカー場、冬には国際スキー連盟（FIS）公認のスキー距離競技場として通年利用されている「白旗山競技場」や、落ち着いた環境の中で研究開発に専念できるように配慮された産業団地「札幌ハイテクヒル真栄」などがあります。



上空から見た真栄



白旗山競技場 ▲夏 ▼冬



ハイテクヒル真栄緑地

戦後しばらく、厚別川、真栄川周辺は豊かな水田地帯でしたが、昭和45年に真栄団地の造成が始まり、国道36号の拡幅などが行われ、のどかな農村地帯から住宅地へと姿を変えていきました。計画的に

